

## 文化・芸術

### 《名画の扉》

大川美術館企画展  
「桐生のアーティスト2025 KIRYU  
Fantasia 桐生幻想曲」から

展示室に足を踏み入ると、闇の中にヤマザキミノリさんの夢幻想射の光が広がっています。点や線が瞬き、ハーフミラーやエッチングミラー、乳白アクリルを重ねた鏡面が光を放ち、来館者の動きに合わせて空間に多様な表情を生み出します。

幼いころに桐生の街に響いていた機械の律動、祇園祭の山車や八木節の熱気、父の紡績機工場で見た金属くずの螺旋（らせん）、群馬大学での化学実験の鮮烈さ―祝祭と技術が

同居するこの土地の記憶は、いま「ライトアート」としてこの場に息づき始めているようです。

展示室には、今年で誕生から満50年を迎える小さな立方体の万華鏡「CUMOS」が置かれています。来館者が手に取り、光にかざすひとときが、作家の原点と作品世界を静かにつなげてくれるでしょう。

（小此木）

※6日（土）午後2時からヤマザキミノリさんのアーティストトークを展示室で開催します。

### 「展示風景」

（すべて作家蔵）  
撮影：木暮伸也

### ヤマザキミノリ（1954年）

